



FMみっきい「じんけん・こころの小窓」番組収録に3名参加



「吉川高校生の成長物語」第22回は、12月3日(土)にFMみっきいスタジオで行われた、三木市人権啓発ラジオ番組「じんけん・こころの小窓」出演(収録)の紹介です。この番組は、三木市人権・同和教育協議会が市民への人権啓発を目的として制作・放送しているものです。本校の取組を取り上げたいと協議会から出演依頼があり、2年生の女子3名が収録に臨みました。

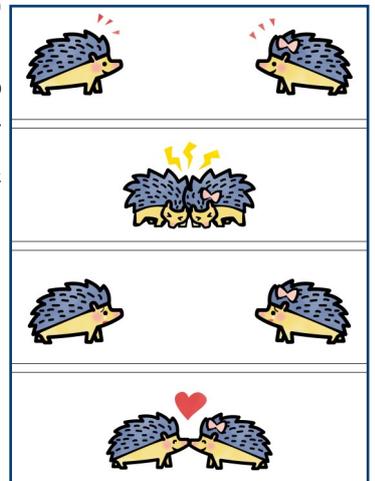
テーマは「**高校生活の『密』と『間(ま)』**」。番組の放送日時は、令和4年12月21日(水)・28日(水)の12時30分から、及び12月24日(土)・31日(土)の8時15分から、いずれも7分程度です。ぜひ、全校生徒・教職員に聞いてもらい、自身の日頃の言動を省みる契機にしてほしい内容ですので、主催者の承諾を得て、23日(金)の2学期終業式で全編紹介する予定です。

ところで、「**高校生活の『密』と『間』**」って、不思議なテーマだと思いませんか。

小規模な吉川高校での生活は、生徒同士、あるいは生徒と先生の心理的距離が近くて、人間関係がとても「密」であることは、皆さんが日頃感じているとおりです。また、「自分の気持ちに正直すぎるほど素直」なことや、「人間関係における無邪気さや遠慮のなさ、人懐こさ」は、吉川高校生の多くに共通する特徴であり、長所でもあります。

しかし、自明のことですが、人それぞれに性格が違えば、ものの見方・感じ方も異なります。育ってきた環境が違えば、ものの好き嫌いもさまざまです。高校という極めて「密」な生活空間で、個性あふれる生徒同士が付度(そんたく)なしで、互いの距離感もつかめずに交われば、トラブルや事件が発生します。だからこそ、「密」な集団の中で他者との適度な「間」の取り方を学習し、好ましいコミュニケーションの方法や、居心地の良い人間関係の築き方を身につけます。これを象徴するのが「密」と「間」です。

紙面の都合上、番組でも取り上げられる「**ヤマアラシのジレンマ**」という寓話(ぐうわ)を紹介して終わりとしします。「密」と「間」について考えるヒントになるはずですよ。



※上のイラスト素材は、作者の利用許可を得ています。

ある冬の日、2匹のヤマアラシは嵐にあいました。2匹は寒いので、お互いの体を寄せ合って暖をとろうとしたところ、互いのトゲで相手の体を刺してしまいます。痛いので離れると、今度は寒さに耐えられなくなりました。2匹はまた近づき、痛いのでまた離れることを繰り返していくうちに、ついに、お互いに傷つけずにすみ、しかもほどほどに暖めあうことのできる距離を発見し、あとはその距離を保ち続けました。

さて、これを吉川高校生の日常に当てはめると…? 続きは、終業式で。お楽しみに!

